Doshisha Business School

Business Studies - MBA

同志社大学大学院ビジネス研究科　ビジネス専攻 - MBA

2026

1875-2025 150th ANNIVERSARY

Doshisha Business School
people hold the key

ASSOCIATION OF MBAS ACCREDITED

2023年10月 国際認証取得

同志社ビジネススクール（DBS、同志社大学大学院ビジネス研究科）は、ビジネス教育の国際認証機関であるAMBA（The Association of MBAs：英国）から、2023年10月18日にMBAプログラムの国際認証を取得しました。

1967年に英国で設立されたAMBAは、AACSB（The Association to Advance Collegiate Schools of Business：米国）、EFMD（The European Foundation for Management Development：ベルギー）とならぶ、世界で権威のある三大国際認証機関の1つです。

現在、世界のビジネススクールの2%、約300校のみが国際認証AMBAを取得しており、同志社ビジネススクールの国際認証AMBAの取得は、日本国内のビジネススクールでは4校目で、関西に拠点を置く大学では初となりました。

同志社ビジネススクールは、国際的な第三者機関による認証評価を経て、世界トップクラスの教育研究活動の質を確立しました。この国際認証は、DBSが提供する教育が良心教育の精神と、京都の伝統と革新を融合した知恵を活かし、持続可能な経済社会の発展に寄与するインテグリティ溢れるリーダーを育成していることを証明しています。AMBAの国際認証を取得することで、DBSの社会人大学院生の成長を重視した教育プログラムと、日本全国で活躍するDBSの修了生コミュニティの質が世界的に認められました。

DBSは今後もAMBAのネットワークを駆使し、教育の質を絶えず向上させ、在学生および修了生への価値提供を追求します。日本語と英語で展開される独自のMBAプログラムを通じて、新たな時代を切り拓くリーダーを育成し、より良い社会作りに貢献していくことを約束します。

BUSINESS SCHOOL
ACCREDITED
2024.4～2029.3

同志社大学大学院ビジネス研究科ビジネス専攻は、2023年度に㈶大学基準協会の認証評価を受け、同協会の定める経営系専門職大学院基準に「適合」していると認定されました。

Contents

研究科長からのメッセージ …… 1
同志社大学大学院ビジネス研究科ビジネス専攻とは
- 同志社ビジネススクールのミッション …… 2
- 「アドミッション・ポリシー」および「ディプロマ・ポリシー」 …… 3
- DBSの教育プログラム …… 4
- DBSで養成される実践的応用力 …… 5
- 社会人が学びやすい環境 …… 6
- 開講スケジュール …… 7
- 履修パターン …… 8

カリキュラム
- カリキュラム …… 9

主要科目の概要 …… 12
専任教員・客員教員および担当科目 …… 14
客員教員・兼担教員・嘱託教員および担当科目 …… 20
公開講座・特別講座 …… 22
同志社MOTコース（ダブル・ディグリー）／国際連携プログラム 24
グローバル経営研究専攻（修士課程） …… 25
学習環境 …… 26
2026年度入試概要 …… 28
修了生からのメッセージ …… 30
DBSネットワーク …… 31
サポート …… 32

研究科長からのメッセージ

ビジネス研究科長　藤原　浩一

建学の精神を「良心教育」とする同志社大学は、創立者、新島襄が明治8年(1875)に設立した同志社英学校を起源とし、2025年で開学150周年を迎えました。その歴史の中で2004年、同志社大学大学院ビジネス研究科（同志社ビジネススクール：DBS）は地域の企業、日本企業の中核人材を生み出す機関として設置され、ちょうど20歳を迎えました。DBSはConscience and Human Dignity（良心と人間の尊厳）を基礎にInnovativeで責任ある経営を実行・実践できるリーダーの養成を目指してきました。

現在DBSは、日本語による「ビジネス専攻」と英語のみの講義からなる「グローバル経営研究専攻」の2つの専攻を擁し、2023年度に国際認証（AMBA）を取得、世界93ヵ国から多様な言語、多様な背景を持った人が学ぶまでに成長してきました。20年という時間が経過する中、現役生、修了生が私たちの最大の資産となりました。

このようなDBSのミッションの下、企業経営者はもとより、事業承継者、ホテルや病院の経営責任者、製造業の技術者、建築士、税理士・会計士、看護師、医師、金融関係者、公的事業機関で公務に携わる方など極めて多岐にわたる分野のひとたちがDBSに学び、様々な立場で経営や組織マネジメントを担うトップ、中核人材として活躍しています。

ですが、私たちはもっと先に進まなければなりません。

京都は日本の中でも稀有な地域性を持っています。最先端の製品を世界に提供できる企業群と1000年以上にわたり日本の美しさの根源となってきた伝統文化に裏打ちされた製品やおもてなしを提供できるファミリー企業群を有しています。この類稀なる古都の中心に私たちDBSは根をおろしつつ「グローバル」と「地域貢献」、一見この2つの両極端に見える方向性を同時に追求し、首尾一貫した体系的なプログラムを我が校の門を叩いた方々に提供したいと考えています。

グローバル経営が当たり前になった現在の日本企業には収益性、人的資本経営、リスクマネジメントを包含するコーポレートガバナンスとESG,SDGsを意識した事業投資が求められるなど、地域社会や人類に対する貢献を含んだ企業価値創造が求められています。しかしこのような社会の要請は、150年前に創立者がわが同志社の中核的価値観としておいたものに他なりません。

現在の状況に問題意識をもち、遠くを見ようとし、変えていこうと思われているからこそ、みなさんはこのパンフレットをご覧になっておられるのかも知れません。大学院の学びを通じて一生の仲間ができるのがビジネススクールという場所です。厳しい競争原理の中で私たちはいったい何に着目し、どのように考え、どう行動すべきなのでしょうか。正しく考え、正しく行動し、他人に対してどれだけ正しい貢献をしえたのかが収益の根源であると言えるかもしれません。正しく考えるために正しい知識を得る。

知識には人生を変える力があります。

みなさんがDBSに仲間として加わり、将来を作り出す力を獲得していくことを切に願います。

ビジネス研究科長

藤　原　浩　一

同志社大学大学院ビジネス研究科ビジネス専攻とは—1

同志社ビジネススクールのミッション

私たちのミッション

同志社大学建学の精神である良心教育と京都に育まれた伝統と革新の知恵に基づき、人間の尊厳を尊重し、企業や組織の成長を担えるリーダーシップを備えた人物を養成する。

Learning Goals

Responsible Innovative Leadership

同志社大学大学院ビジネス研究科(DBS)は2004年4月に設置された専門職大学院です。DBSのミッションは、「同志社大学建学の精神である良心教育と京都に育まれた伝統と革新の知恵に基づき、人間の尊厳を尊重し、企業や組織の成長を担えるリーダーシップを備えた人物を養成する」です。

このミッションを反映した人材を輩出するために、社会人が働きながら日本語で学ぶビジネス専攻およびビジネスでの活躍を目指す世界の留学生が英語で学ぶグローバル経営研究専攻において、教育とビジネスの実践を支える研究および社会貢献活動を行うことを通じて、経済社会の持続的な発展に貢献するビジネススクールたらんというビジョンを掲げています。

さらにDBSの大きな特色として、京都の伝統と革新をもたらす知恵を反映することがあります。昨今の企業経営を巡る経済環境の様々な変化や経済活動の多様化・高度化は、従来の企業内教育では対応しきれない多くの問題を招いており、DBSには企業や社会が求める優れた人材教育を実践する場としての役割が期待されているところです。このような要請に応えるべく、常に企業と社会に開かれた教育と研究を通して、グローバルな視野の下、伝統を踏まえそこから不断のイノベーションを生み出し、経済、社会の変化に的確に対応し、企業や組織の持続的発展を推進できる次世代ビジネスリーダーを育成する教育を提供していきます。

てきとうふき
倜儻不羈

新島襄の遺言を徳富蘇峰が口述筆記したもの

原文
同志社ニ於てハ倜儻不羈なる書生ヲ圧束せす務めて其の本性ニ従ひ之ヲ順導し以て天下の人物を養成す可き事

現代語訳
同志社では倜儻不羈(てきとうふき)なる書生〔信念と独立心とに富み、才気があって常規では律しがたい学生〕を圧迫しないで、できるだけ彼らの本性にしたがって個性を伸ばすようにして天下の人物を養成すること

DBSでは、グローバル化するビジネス環境には新島の遺言にある「倜儻不羈」な人材が必要であると考えています。

アドミッション・ポリシー

ビジネス研究科ビジネス専攻は、同志社大学の建学の精神である良心教育に立脚し、京都に位置する経営系の専門職大学院として、伝統を踏まえそこから不断のイノベーションを生み出すことを通じて経済、社会の変化に的確に対応し企業や組織の持続的な発展を推進できる次世代ビジネスリーダーを育成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

ビジネス研究科ビジネス専攻の求める学生像

1. 多様で広い視野を持ち、経済のグローバル化や技術革新・地球環境問題において積極的にビジネス分野で活躍を目指す学生。
2. 中小企業の起業・成長・継承を目指す学生、あるいは、地域の経済・社会の発展に貢献する意欲を持つ学生。
3. イノベーションに取り組み、単なる「ものづくり」企業からの脱皮と、市場のグローバル化、製品等のコモディティ化に対応しうるマネジメントのあり方に解をみつけようとする高い意欲を有する学生。
4. マーケティングの分野で専門的な知識を獲得し、企業や組織の発展に寄与する意欲を持つ学生。
5. 会計･ファイナンスの分野で専門的な知識を獲得し、社会、経済、企業の発展に寄与しようとする学生。
6. 企業を取り巻くビジネス環境の現状と今後の動向に関心を持つとともに、ビジネス環境に関する知識を駆使して、社会、経済、企業の発展に貢献することを目指す学生。
7. 特定の専門領域にとらわれず、組織マネジメント、人的資源管理、経営戦略等に関する総合的な知識を活かして、経営のさらなる高度化を図ることを企図している経営者、あるいは、次世代経営者としての職にある学生。

ビジネス研究科ビジネス専攻の入学までに身につけてほしいこと

1. 学習の基礎となる知識・教養に加えて、いずれかの事業分野における実務経験と専門的知識またはそれに準ずる学識や経験を身につけていること。
2. 上記の知識や経験に基づき、柔軟かつ論理的な思考力、判断力、表現力を持ち、自ら問題点を発見し、それを解決するため学習する力を持っていること。
3. 自らの事業分野または関心のある事業分野の課題解決と社会的課題解決への貢献のため、主体性をもって多様な経験や能力を持つ人々と協働して学習する意欲を持っていること。
4. 国内外の経済社会への高い関心の下、企業・組織が直面する諸課題や自らが取り組むべき課題を認識しまたは強い問題意識を持ち、ビジネス研究科で学ぶ目的が明確になっていること。

入学者選抜制度

これらの知識・経験、思考力・判断力・表現力、意欲、目的を有しているかを、書面および口述試験を通じて判定します。

ディプロマ・ポリシー

ビジネス研究科ビジネス専攻（以下では「本専攻」という）は、同志社大学の建学の精神である良心教育に立脚し、京都に位置する経営系専門職大学院として、伝統を踏まえそこから不断のイノベーションを生み出すことを通じて経済、社会の変化に的確に対応し企業や組織の持続的発展を推進できる次世代ビジネスリーダーを養成することを使命としています。このため、本専攻の教育課程で所定の修了要件を満たす過程において、以下のような能力・資質・感性を修得した人物に「ビジネス修士（専門職）」（MBA）の学位を授与します。

1. 経営の基礎的知識や技能をもとに、発展的知識や技能を身につけ応用することができる。これらの知識・技能を駆使して、Responsible Innovative Leader として、国内外または地域社会のビジネスや経営に貢献することができる。（知識・技能）
2. 良心に基づき、革新を産み出すための思考や判断をすることができ、またリーダーとしての優れたコミュニケーションをおこなうことができる。（その際の言語は、まずは日本語を想定している。）これらの思考力・判断力・表現力を駆使して、Responsible Innovative Leader として、国内外または地域社会のビジネスや経営に貢献することができる。（思考力・判断力・表現力）
3. リーダーとして、主体的に動き、多様性を尊重し、協働性を発揮することができる。これらの主体性・多様性・協働性を駆使して、Responsible Innovative Leader として、国内外または地域社会のビジネスや経営に貢献することができる 。（主体性・多様性・協働性）

DBSの教育プログラム

DBSの教育課程を修了するとビジネス修士（専門職）
Master of Business Administration：MBAの学位が授与されます

優れた企業経営者となるには、自身の経験だけでは十分でありません。優れた先人の経験に照らして自分の経験を相対的に位置づけることや、先人の叡智に学ぶことがきわめて大切です。「学問とはわずかなときの間に、数百千年の人類の経験を受けとることである」「学べば学ぶほど何も知らないということが分かるようになる。何も知らないと分かるようになるほど、もっと学びたくなる」のです。学問と実践との間には深い溝があると思う人もいるかもしれませんが、実は、意外にその距離は離れていないのです。

上記のことを踏まえて、DBSにおける教育は次のステップで展開されます。まず、コアとなるビジネスの基本的な専門知識と必要な能力の修得を目指します。これらは、いつの時代、どこの国、どんな産業、組織においても共通して変わらぬ必須条件です。こうした基本的な知識、能力を修得することでMBAに期待される幅広い基盤形成が実現します。次に、それぞれの人材が活躍する様々な分野、業種、職種に対応した高度専門性を身につける段階に進みます。ここでは、それぞれの目的に即した科目を履修し、問題解決型の分析を学びます。こうして、専門知識をいかに実践的に活用するかという応用力が磨かれる事になります。そして、最終段階では、自らが設定した課題について、これまでに蓄積された先人たちの叡智を確認したうえで、未解決の問題にどのようにアプローチすればよいかを長いストーリーとして記述するソリューションレポートの作成に取り組みます。

いかに流暢に話せる人でも、また、スマートなプレゼンテーション資料を作れる人でも、それらの人が説得力のある簡潔な文章が書けるわけではありません。データを活用し、ロジックを一つひとつ積み上げることで、初めて優れた文章が完成します。解決案の提示を文章で行うこと、また、レポート作成プロセスでの体験は、みなさんをさらに大きく成長させることでしょう。

DBSで養成される実践的応用力

MBAとしての実践的応用力は、「ソリューションレポート」の作成によって磨かれます。
「ソリューションレポート」の作成は、演習科目である「プロジェクト研究基礎」→「プロジェクト研究Ⅰ」および「プロジェクト研究Ⅱ」により、それぞれのテーマを専門分野とする教員の指導の下に進められます。テーマが多くの分野にわたる場合は、複数の教員が相互に協力して指導に当たるシステムになっています。

ソリューションレポートとは

「ソリューションレポート」と研究者養成のための大学院における修士論文との違いはどこにあるのでしょうか。次の表をご覧ください。

	ソリューションレポート	修士論文
研究動機	実務経験に基づいた問題意識から生まれる動機	研究関心および研究のなお一層の進展
蓄積された叡智の活用	実務経験、書籍、論文、雑誌記事、新聞記事、統計データ等	書籍、論文、雑誌記事、新聞記事、統計データ等
研究方法	記述的方法、統計的分析、フィールド研究、文献レビュー等	文献レビュー、統計的分析、モデル分析、数理的モデル、実験室実験、歴史研究、フィールド研究等
論文の価値	実践的インプリケーション	既存研究の進展、新たな研究的知見

研究者養成のための大学院では、通常、5年間の研究期間を前提に研究を進めます。そのため、最初の2年間で、研究を行うための専門分野・周辺分野の知識の獲得と研究対象分野の研究蓄積の全容把握、研究を実施するための研究方法論を学びます。修士論文では、研究対象分野の研究蓄積の全容把握ができていることを示す文献レビュー論文になることが多いのです。修士論文を踏まえて、独自に設定した研究テーマについて、研究完成にもっとも適した研究方法を採用して、オリジナルな博士論文を完成させます。

一方、ビジネススクールでは、実務経験に触発されて設定したテーマについて、研究を通じて実践的インプリケーションのあるレポートを作成します。限られた修学期間中に修得できる研究方法は限定されているかもしれませんが、研究者の卵たちが採用する多様な研究方法を使用してももちろんかまいません。実務的インプリケーションは、十分な証拠、明快なロジック、既存知識の確認等があって初めて導出することができるのです。「…べきである」「…と思われる」「…と推察される」という文章を書きたくなりますが、「べきである」と断定する根拠を示すことはとても難しいことです。「…と思われる」「…と推察される」という文は、ロジックが断絶していることや思考を途中で停止したことを自ら宣言しているわけです。

実務に直結するソリューションレポート

研究者の卵たちが書く論文よりも、実務経験という社会人のみが体得した知識や経験が追加されること、さらには、実践的インプリケーションを必ず持たなければならないという点で、ビジネススクールで作成する「ソリューションレポート」は、研究論文よりも一段と高度なものが要求されることになるでしょう。「問題発見」→「問題分析」→「問題分析結果（実践的インプリケーション）の提示」というプロセスを経て、「ソリューションレポート」は完成します。完成に至るプロセスでの体験は、MBA 取得後に、間違いなく実務に応用できるものとなるでしょう。

ソリューションレポートのテーマ例

「公開情報から探る企業の良心の研究」

「施工管理者の暗黙知獲得プロセスと知識経営の質的研究」

「機会認識を促進する抽象化フレームワークの実証研究」

「看護部長の意思決定に関する研究
～意思決定要因と看護の理論に焦点を当てて～」

社会人が学びやすい環境

働きながら学ぶということ、それは「時間的な制約の中でいかに効率的に計画を立て、それぞれの目標に向かっていくか」という問題に対処することでもあります。この問題に効率的に対処するために、DBSでは、様々なキャリアデザインに対応できるカリキュラムを提供すると同時に、専任教員が入学から修了まで一貫して指導に当たる体制を敷いています。これにより、一人ひとりのバックグラウンドに応じた科目選択が可能になります。また、それぞれの目標に向かった効率的な履修計画、あるいは問題解決に向けた専門知識や手法の修得についても、専任教員によるサポートが得られます。このような充実した指導体制により、限られた時間の中で仕事と勉学とを効率的に進めることが可能となり、設定した目標が達成できるのです。

データで見る学生の姿（下の円グラフ）

●年齢構成 ― 30歳・40歳代が中心
原則として社会人を対象としているため、職務経験をもつ30歳代・40歳代の働きながら学ぶ社会人学生が多数を占めています。また、毎年若干名の学部新卒者も入学しています。

●主な所属業界 ― 多様な背景
製造業やサービス業従事者が比較的多く見られますが、他にも多様な業界から学びに来ています。

●出身学部 ― 自然科学系出身者も多い
技術畑で一定の職務経験を積んだ自然科学系学部出身者が比較的多く見られるのもひとつの特徴です。

開講スケジュール

社会人が学びやすいように、DBSでは、今出川校地（寒梅館）のほかにも大阪（梅田）のサテライト・キャンパス内に教室を置いています。平日の夜間には、大阪サテライト・キャンパスと今出川校地の2ヶ所で授業を開講しています。このため、平日夜間に利便性のよい校地で1～2科目受講し、土曜日の昼間に今出川校地で2科目を毎学期受講すると、2年間で無理なくDBSの教育課程を修了することができます。

寒梅館に設置されている図書室やその他の学習スペースは年間を通じて24時間利用可能で、平日には仕事で時間が取りにくい方も、週末等に十分時間をかけて勉強できるよう配慮されています。

修了必要単位46単位のうち、ソリューションレポートの作成指導が行われるプロジェクト研究基礎、プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱを除く40単位を講義で取得する必要があります。修了希望年限を考慮し、計画的に受講計画を立ててください。

■年齢構成

■主な所属業界

■出身学部

■性別構成

2004年の開設以来、今日までDBSに集い学んできた学生の多様な姿を紹介します。

※2009年秋に開設されたグローバルMBAコース・2014年秋に開設されたグローバル経営研究専攻の学生は、員数に含まれていません。

同志社大学大学院ビジネス研究科ビジネス専攻とは―4

履修パターン

履修パターン（2年修了の場合）

各学期開始前に個別の履修指導を行います。これにより、個々人のキャリアデザインに即した履修計画を作成し、効率的な学習を進めることが可能になります。

1年目

春学期		秋学期	
前半	後半	前半	後半
必修科目 2科目（4単位）	2科目（4単位）	2科目（4単位）	2科目（4単位）
共通科目A 1科目（2単位）	1科目（2単位）	共通科目B 1科目（2単位）	1科目（2単位）
●プロジェクト研究基礎・Ⅰ・Ⅱの3科目も必修科目 ●ソリューションレポートの合格も修了要件			プロジェクト研究基礎 1科目（2単位） ソリューションレポート
（6単位）	（6単位）	（6単位）	（8単位）

2年目

春学期		秋学期	
前半	後半	前半	後半
専門科目 3科目（6単位）	3科目（6単位）	1科目（2単位）	1科目（2単位）
プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ　2科目（4単位）			
ソリューションレポート			
			●プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱは期末に一括で成績評価がつけられる
（6単位）	（6単位）	（2単位）	（6単位）

修業年限

標準修業年限は2年です。ただし、個人の状況に合わせて出願時に3年修了を選ぶことができます。

学期・授業

入学は毎年4月で、春・秋の2学期制です。各学期は前半と後半に分かれています。
授業は、1回に2時限連続（90分×2）で開講します。1つの科目は、8週間（試験期間を含む）で完結し、2単位が修得できます。

履修計画

●2年修了の場合、1年目の春学期は「必修科目」の履修が中心となります。同時に「共通科目A（各専門分野の基礎科目）」の履修が推奨されます。1年生の秋学期は「必修科目」を履修しつつ、「共通科目B（各専門分野の発展科目）」の履修が本格化します。秋学期後半には「プロジェクト研究基礎」（必修）で本格的なプロジェクト研究への準備を進めます。そして、2年目に「プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」（必修）に加えて、プロジェクト研究遂行に必要な「専門科目」を履修しながら、「ソリューションレポート」を作成します。

●講義での必修科目は以下に示す8科目です。必修科目の履修により、その他の科目を履修するうえで必要となる基本的知識を習得することができます。

オペレーションズマネジメント、マーケティング、基礎会計学・ファイナンス、ビジネス経済学、ビジネス統計学、組織行動と人的資源管理、経営戦略、企業経営と良心

これら必修科目の履修機会は限られるため、とりわけ計画的かつ前倒しでの履修が必要です。

●ソリューションレポートはプロジェクト研究を通じて作成していくことになりますが、1年目から自らの問題を明確にし、テーマの設定に取り掛かることが重要です。

修了要件

下記の要件を満たしたものを課程の修了とします。
①本課程に原則として2年以上在学すること。
②所定の46単位以上を修得すること。
③ソリューションレポートの審査に合格すること。

取得学位

ビジネス修士（専門職）
Master of Business Administration (MBA)

カリキュラム

本専攻では、必修科目、共通科目A・Bおよび専門科目群の学習を通じて、現代のビジネス現場で求められる①Responsible（責任ある経営）、②Innovative（革新）、③Leadership（リーダーシップ）（DBSではそれぞれの頭文字をとってRILと呼んでいます）を養っていきます。カリキュラムを構成する各科目には、その科目に最適な固有の学習目的が設定されています。本専攻のカリキュラムに沿って学ぶことで、受講者はこのRILを効率的に習得することができます。

ビジネス研究科の1年

各学期ごとに科目登録・成績発表を行います

春学期履修指導 科目登録期間

春学期		
4月 April	授業（春学期前半）	■入学式 オリエンテーション
5月 May	授業（春学期前半）試験	■ゴールデンウィーク（休講）
6月 June	授業（春学期後半）	
7月 July	授業（春学期後半）試験	
8月 August		■夏期休暇
9月 September	**秋学期履修指導 科目登録期間**	■春学期ソリューションレポート審査 ■プロジェクト研究ワークショップ ■春学期学位授与式

秋学期		
10月 October	授業（秋学期前半）	
11月 November	授業（秋学期前半）試験	■創立記念行事週間（休講）
12月 December	授業（秋学期後半）	■冬期休暇
1月 January	授業（秋学期後半）試験	■秋学期ソリューション レポート審査
2月 February		
3月 March	**在学生春学期履修指導**	■秋学期学位授与式

■教育課程連携協議会

同志社大学大学院ビジネス研究科では、その教育のあり方につき社会の要請に応え、常に改善を続けるため、以下の外部有識者をメンバーとする教育課程連携協議会を設け、貴重な助言を得て、カリキュラムの見直しや点検を行っています。

●2024年度教育課程連携協議会委員（敬称略）

株式会社SCREENホールディングス取締役会長、公益社団法人京都工業会副会長　垣内永次 ／ 株式会社松栄堂代表取締役社長　畑正高 ／ 公益財団法人京都産業21理事長、株式会社島津製作所代表取締役会長　上田輝久 ／ アジア経営大学院名誉教授　EDILBERTO C. DE JESUS ／ 同志社大学名誉教授　大久保隆 ／ 同志社校友会副会長、元株式会社ANA総合研究所会長　河本宏子 ／ 国際協力機構緒方貞子平和開発研究所長、同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授　峯陽一 ／ 阪神高速道路株式会社シニアアドバイザー、一般財団法人関西情報センター会長　森下俊三

カリキュラム（設置科目）　※2025年度設置科目から抜粋

ソリューションレポート プロジェクト研究	**ソリューションレポート** **プロジェクト研究**	ソリューションレポート プロジェクト研究Ⅱ プロジェクト研究Ⅰ プロジェクト研究基礎					
		中小企業・地域経営	**イノベーション**	**マーケティング**	**会計・ファイナンス**	**ビジネス環境分析**	**ゼネラルマネジメント**
専門科目	**専門科目** 各専門分野について、より高度で最新の知識を獲得するための応用科目です。	産業集積とエコシステム 中小企業経営演習 ベンチャーファイナンス 戦略的企業再生 中小企業経営コンサルティング 観光マーケティング 京都の知恵ビジネス 地域ブランド戦略 都市経済学 中小企業・地域経営特殊研究	オープンイノベーション DXビジネス戦略 サプライチェーンマネジメント 技術マーケティング 知財マネジメント MOT概論 MOT特殊講義 イノベーション特殊研究	BtoBマーケティング 広告・コミュニケーション 商品・ブランド開発 マーケティング特殊研究	リスクマネジメント 会計・監査 証券市場 税務戦略 M&A戦略 コストマネジメント コーポレートファイナンス 会計・ファイナンス特殊研究	データ・サイエンス 現代地政学と経済安全保障 マクロ経済分析 Green Management in Action ビジネス環境分析特殊研究	ビジネスコミュニケーション ナレッジマネジメント リーガルマインド ゼネラルマネジメント特殊研究
共通科目B	**共通科目B** 各専門分野の共通科目Aで獲得した基礎知識をさらに拡充する発展科目です。共通科目Aで獲得した知識を前提としている点にご留意ください。	起業と事業創造 京都の伝統産業と文化ビジネス	プロジェクトマネジメント ビジネスモデルイノベーション	マーケティングリサーチ 消費者行動	ビジネス会計学 ビジネスファイナンス コーポレートガバナンス 管理会計	ミクロ経済分析 企業の社会的・国際的役割	リーダーシップ 企業価値経営 ダイバーシティ・マネジメント
必修科目・共通科目A	**必修科目・共通科目A** DBSでは、6つの専門分野（中小企業・地域経営、イノベーション、マーケティング、会計・ファイナンス、ビジネス環境分析、ゼネラルマネジメント）を設定しています。必修科目・共通科目Aは、各専門分野における基礎科目です。	中小企業経営 ※**紫色太字**は必修科目	**オペレーションズマネジメント** イノベーションマネジメント	**マーケティング**	**基礎会計学・ファイナンス**	**ビジネス経済学** **ビジネス統計学**	**組織行動と人的資源管理** **経営戦略** **企業経営と良心** 組織マネジメント

履修科目の選択について

入学後、履修相談を担当する履修指導教員が決められます。履修科目の選択や履修計画については、履修指導教員の指導を必ず受けてください。なお、「プロジェクト研究基礎」の指導教員（ゼミ担当教員）決定後は、指導教員が履修指導教員となります。

グローバル経営研究専攻科目の履修について

全ての授業を英語で実施するグローバル経営研究専攻（P.25参照）の設置科目も、一定の条件の下で履修が可能です。ビジネス専攻の学生に配慮し、平日夜間に開講される科目もあります。

主要科目の概要　（2025年度開講科目）

専任教員が担当する主な授業科目について、講義の目的や講義内容、授業の進め方など、科目の概要を紹介しています。
下記科目をはじめ、2025年度開講科目の詳細は、同志社大学ホームページからシラバスをご覧ください。
https://syllabus.doshisha.ac.jp/

ビジネス統計学

データを基礎とするビジネスを構築するための基礎能力として、「統計理論の数理的知識・計算能力」、「ソフトウェアの操作能力」、「データベースを扱う能力」、以上少なくとも3つの能力が必要となる。そこで本科目では、データベースの基礎知識とソフトウェア操作の基礎能力を基盤に、統計数理の計算練習を通じ「記述統計」の基礎を固め、ついで「推測統計」を学ぶ。統計的推定・検定では正規分布、t分布、F分布、カイ二乗分布の理論的基礎を学び、平均値の差の検定、適合度検定などの演習を行う。その上で「多変量解析」について学習する。特にビジネスを考察する分析方法として、相関・回帰分析、主成分、因子分析、クラスター分析、判別分析などについて学ぶ。

マーケティング

この科目では、企業のマーケティング活動とその基本概念の理解に焦点を当てる。具体的には、製品、価格、販売チャネル、販売促進の4つの要素を学ぶ。また、ケース分析を通じてマーケティングの基本戦略であるSTPと4Pを深く理解し、ビジネスコミュニケーション能力を向上させることを目的とする。他のマーケティング科目の基盤となる重要な科目である。

イノベーションマネジメント

企業の持続的成長のドライバであるイノベーションについて、「イノベーション≠技術革新」という前提の下、次の3つの視点から網羅的に学習する。①イノベーションの基礎理論、②イノベーションの阻害要因、③イノベーションの促進方法。これらの分野の代表的な文献をしっかり読み込んだ上でディスカッションを行うことで、イノベーションに関する理解を深める。

経営戦略

戦略経営の核心は「事業成功」を成し遂げることにある。事業プランニングは戦略経営の重要な要素であるが、プランニング自体が戦略経営と同義であるわけではない。つまり、プランニングと戦略は区別されるべきである。本科目では、戦略経営のフレームワークや理論体系の概念的理解とともに、その実践方法の習得を目的としている。取り組むべきキークエスチョンは次の三つである：「なぜある企業は他社よりも優れたパフォーマンスを達成するのか」、「良い戦略・良い戦略経営とは何か」、「戦略分析はいかに行うべきか」。

ビジネス経済学

経済学は、消費や生産に関する個人や企業による選択行動と、それらの間の相互関係を通じて実現する結果について研究する学問である。ビジネスの実務者は、投資や生産・流通の方式、顧客の獲得戦略など様々な意思決定（すなわち選択）を行うが、適切な選択を行うためには、自身が取り扱う財やサービスについて知るだけでなく、企業間の競争や市場の構造など経済メカニズムに関する理解が不可欠である。この科目では、学部で経済学を専門的に学ばなかった学生を対象として、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本について講義する。その際、ビジネス実務において経済学がいかに有用であるか、事例を用いながら説明することとする。

組織行動と人的資源管理

人を活用し成果を上げ、サステナブルな経営を実現するために、個人と集団の行動に関する基礎理論を習得する。その応用として、人的資源の活用を目的とした諸施策についても学ぶ。これらを通じて、経営者、マネージャー、プロジェクトリーダー、または人事担当者として、人的資源を活用して成果を上げる実践的な力を養成する。

中小企業経営

経営に関する理論や分析手法の多くは中小企業にも適用可能である。しかし、中小企業にとってどの理論や分析手法が特に重要であるか、また、理論や分析手法の適用に際してどのような視点を重視するかは必ずしも大企業と共通ではない。本科目では、中小企業およびその経営の特色を踏まえ、経営理念、事業ドメイン、内外事業環境分析の基本的手法の適用により中小企業の経営戦略を考察するとともに、中小企業の組織・人材マネジメント、事業承継, 海外展開、財務戦略のあり方について考察する。

ビジネスファイナンス

本科目は企業のファイナンスの中級科目と位置づけ、その理論と実務の概要について学ぶ。講義では、まず財務会計や財務分析の基礎事項を学ぶ。続いて実務でも広く用いられる企業価値評価方法である、DCF法をマスターする。受講者には最終アウトプットとして、自身が勤める会社を分析した「証券アナリストレポート」を作成いただくこととする。

イノベーション特殊研究（生産財のイノベーション）

本科目は、イノベーションマネジメントの中でも生産財企業を中心に学習する。ここでの生産財企業の定義は、顧客が一般消費者ではなく企業が主体の企業である。授業は、①重要事項の講義・全体討議、②事例研究、③受講生による優れた生産財企業の成功要因の分析、の順で進められる。

BtoBマーケティング

営業主導の取引が多い日本企業において、マーケティングの役割が十分に認識されていないケースも少なくない。本講義では、BtoB市場の基礎知識から実践的なマーケティング戦略までを学び、日本と欧米におけるBtoB取引の違いを理解し、BtoB特有のブランディングや顧客価値創造の視点も重視する。法人顧客の購買行動や市場分析、マーケティングと営業の関係性、デザイン思考やデジタルマーケティングの活用など、最新のトピックも網羅。実務家が陥りやすい誤解を解消し、理論と実践のバランスを取りながら、企業の持続的な競争優位のための戦略を探求する。受講生が自身の業務に応用できるスキルを習得することを目指し、対話を通じて手も頭も動かす学習環境を提供する。

京都の伝統産業と文化ビジネス

本科目では京都の伝統産業と文化ビジネスの歴史、本質、現状を分析し、高付加価値の文化ビジネスへの展開を主テーマに授業を進める。三部構成で、第1部では京都の伝統産業の基礎知識を学び、第2部では職人や経営者から実践的な知見を得る。最後の第3部では、プロジェクトベースの学習を通じて具体的な提案を作成し、伝統産業のグローバルな文化ビジネスへの転換を探求する。

ビジネス会計学

本科目では、財務会計の概要と財務分析について学ぶ。財務会計には財務諸表を作成する側面と財務諸表を利用する側面があるが、後者に力点を置き、財務諸表が示す数値や会計ルールを理解し、ビジネスに活用していくことを主たる目的とする。演習や具体的事例を取入れ、実践的かつ経理や財務の実務経験がない人にとっても理解しやすい内容としたい。

専任教員・客員教員および担当科目

各教員の2026年度担当科目は一部変更となる場合があります。
決定次第ビジネス研究科ホームページに掲載します。
教員の履歴・研究業績は、ホームページに掲載しています。併せてご覧ください。

URL：https://bs.doshisha.ac.jp/

〈ビジネス専攻〉

教授
井上　福子（いのうえ　ふくこ）

神戸大学博士（経営学）、インディアナ大学MBA（アントレプレナーシップ専攻）、ロンドン・スクール・オブ・エコノミックス・アンド・ポリティカル・サイエンスMSc（比較労使関係および人事管理）
日本企業に勤務の後、留学を経て、複数の国際機関および大手外資系企業に勤務。外資系企業では、部長職、人事本部長職等、要職を歴任。国際原子力機関（ウィーン本部）の人材計画課長、上級人事担当官を経て現職。

担当科目　＜ビジネス専攻＞　『組織行動と人的資源管理』『組織マネジメント』『リーダーシップ』『プロジェクト研究基礎・Ⅰ・Ⅱ』

専門分野　人的資源管理、組織開発

教授
児玉　俊洋（こだま　としひろ）

東京大学経済学部卒業
通商産業省・経済産業省で、中小企業政策、地域産業政策を中心に実務と研究の両面に従事。特に、「産業クラスター計画」の原型とされる首都圏西部地域における協議会組織の設立、経済企画庁において「景気ウォッチャー調査」の創設に従事。研究職としては、埼玉大学大学院政策科学研究科助教授、独立行政法人経済産業研究所上席研究員、京都大学経済研究所教授を歴任。日本政策金融公庫特別参与を経て2012年度より現職。

担当科目　＜ビジネス専攻＞　『中小企業経営』『起業と事業創造』『産業集積とエコシステム』『中小企業経営演習』『プロジェクト研究基礎・Ⅰ・Ⅱ』

専門分野　産業クラスター、中小企業

教授
高広　伯彦（たかひろ　のりひこ）

同志社大学大学院（社会学修士）、京都大学博士（経営科学）
博報堂、電通にてマーケティングと広告の戦略・企画、Googleでセールス・マーケティングとプロダクトマーケティングのマネージャーを経験後、独立。スタートアップから上場企業まで、BtoC・BtoB関わらず、マーケティングと事業開発の支援を10年以上にわたって行う。並行して、マーケティング領域の研究を継続してきた。社会人教育においては、社会構想大学院大学コミュニケーション・デザイン研究科特任教授を経て現職。

担当科目　＜ビジネス専攻＞　『技術マーケティング』『BtoBマーケティング』『デジタルマーケティング』『広告・コミュニケーション』『プロジェクト研究基礎Ⅰ・Ⅱ』

専門分野　デジタルマーケティング、BtoBマーケティング、マーケティング・コミュニケーション、無形財のマーケティング、デザイン思考

教授
崔　裕眞（チェ　ユージン）

英国ケンブリッジ大学PhD（経済史）、ケンブリッジ大学MPhil（経営学と歴史学）
英国ロンドン大学 MBA（国際経営戦略）
日欧米韓でサムスングループ会長戦略秘書室（社内教育・産学連携担当）主任、英国ケンブリッジ大学の入学前高校生向け教育プログラム講師、2007年9月帰国後は一橋大学経済研究所外国人特別研究員（JSPS）およびイノベーション研究センター特任講師、2011年4月より立命館大学MOT大学院准教授・教授およびグローバルリベラルアーツ学部教授、2022年5月より米国の南カリフォリニア（USC）大学経営大学院の客員教授・上席研究員を経て2023年4月より現職。

担当科目　＜ビジネス専攻＞　『経営戦略』『京都の伝統産業と文化ビジネス』『ナレッジマネジメント』『ラグジュアリマネジメント』『プロジェクト研究基礎・Ⅰ・Ⅱ』

専門分野　ナレッジマネジメント、経営戦略

教授
野瀬　義明（のせ　よしあき）

神戸大学大学院自然科学研究科博士前期課程修了、修士（理学）
筑波大学大学院ビジネス科学研究科博士後期課程修了、博士（経営学）
1997年に大和総研へ入社。主に上場企業への経営コンサルティングと、M&A案件でのビジネスデューディリジェンスに従事。2008年に大和SMBCキャピタル（現大和企業投資）に転籍。バイアウトファンドの投資担当者として様々な買収案件に参画。2012年からは桃山学院大学経済学部に転じファイナンスを担当。2016年より現職。

担当科目　＜ビジネス専攻＞　『基礎会計学・ファイナンス』『ビジネスファイナンス』『証券市場』『プロジェクト研究基礎・Ⅰ・Ⅱ』

専門分野　コーポレートファイナンスに関する実証分析

特別客員教授
延岡　健太郎（のべおか　けんたろう）

マサチューセッツ工科大学（MIT）でPh.D(経営学博士)、SM（経営学修士）取得
大阪大学工学部卒業
マツダ株式会社で商品戦略を担当後、神戸大学経済経営研究所教授、一橋大学イノベーション研究センター教授、大阪大学経済学研究科教授を歴任。大阪大学名誉教授、一橋大学名誉教授、神戸大学名誉教授。

担当科目　＜ビジネス専攻＞　『MOT概論』『消費財のイノベーション』『生産財のイノベーション』『プロジェクト研究基礎・Ⅰ・Ⅱ』

専門分野　価値創造とイノベーションのマネジメント

教授　ビジネス研究科長
藤原　浩一（ふじわら　こういち）

慶應義塾大学大学院商学研究科商学専攻博士課程修了
慶應義塾大学大学院修了後、弘前大学人文学部経済学科、福島大学経済学部助教授を経て現職。
上場企業および地元団体と、各種MBA、MOTプログラムの開発、実行に携わる。

担当科目　＜ビジネス専攻＞　『ビジネス統計学』『コーポレートファイナンス』『データ・サイエンス』『プロジェクト研究基礎・Ⅰ・Ⅱ』

専門分野　経済学、技術経営、金融工学、統計学

教授
文　世一（ムン　セイル）

立命館大学理工学部土木工学科卒業、京都大学大学院工学研究科博士課程修了、京都大学工学博士、京都大学博士（経済学）
東北大学大学院情報科学研究科助教授、京都大学大学院経済学研究科教授を経て現職。都市の空間構造、交通政策に関する理論的研究を行ってきた。著書に『交通混雑の理論と政策』, 東洋経済新報社, 2005年、最近の論文として、“Joint provision of transportation infrastructure”, Economics of Transportation, 19, 100118, 2019年など。

担当科目　＜ビジネス専攻＞『ビジネス経済学』『ミクロ経済分析』『都市経済学』『プロジェクト研究基礎・Ⅰ・Ⅱ』

専門分野　都市経済学、交通経済学

各教員の2026年度担当科目は一部変更となる場合があります。
決定次第ビジネス研究科ホームページに掲載します。
教員の履歴・研究業績は、ホームページに掲載しています。併せてご覧ください。

URL：https://bs.doshisha.ac.jp/

〈ビジネス専攻〉

教授

森　良弘（もり　よしひろ）

神戸大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了、博士(工学)(九州大学)、MBA(同志社大学)
新日本製鐵株式会社の新規事業支援研究部門から、外資系半導体材料メーカー、株式会社堀場製作所を経て、株式会社堀場アドバンスドテクノにて執行役員として分析計測機器の技術開発マネジメントを担当。
技術者としての専門分野は分析計測技術および半導体洗浄プロセス技術。
2022年4月より現職にてイノベーション分野の研究と教育に携わる。

担当科目　＜ビジネス専攻＞　『イノベーションマネジメント』『ビジネスモデルイノベーション』
『オープンイノベーション』『プロジェクト研究基礎・Ⅰ・Ⅱ』
＜グローバル経営研究専攻＞　『Strategic Management for Innovation and Change』

専門分野　イノベーションマネジメント

教授

山下　貴子（やました　たかこ）

アパレルメーカー、食品メーカーのマーケティング部に勤務後、
神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程企業システム専攻修了、博士（商学）
東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士後期課程単位取得退学、博士（学術）
流通科学大学商学部、同大学大学院流通科学研究科博士後期課程教授を経て現職。
2005年、2023年ヴァージニア大学ダーデン・ビジネススクール客員研究員。

担当科目　＜ビジネス専攻＞『マーケティング』『マーケティングリサーチ』『消費者行動』『商品・ブランド開発』
『プロジェクト研究基礎・Ⅰ・Ⅱ』

専門分野　マーケティング、消費者行動

〈寄付教育研究プロジェクト「同志社大学産学連携によるMBA教育機能強化プロジェクト」〉

教授

梅田　昭夫（うめだ　あきお）

ロンドン大学インペリアル・カレッジ大学院修了（経営学修士）
神戸大学大学院経済学研究科博士課程前期課程修了（経済学修士）
りそなグループおよびSCREENホールディングスにおける豊富な実務経験を有する。
りそなホールディングスでの企画部IR室長、コーポレートコミュニケーション部長等の役職に加え、SCREENホールディングスでは長年にわたって常勤監査役を務めた。

担当科目　＜ビジネス専攻＞　『コーポレートガバナンス』『ビジネス会計学』『会計・監査』『プロジェクト研究基礎・Ⅰ・Ⅱ』
＜グローバル経営研究専攻＞　『Project-based Iinternship』

専門分野　コーポレートガバナンス、コーポレートファイナンス

〈グローバル経営研究専攻〉

教授

飯塚　まり（いいづか　まり）

同志社大学（心理学）、スタンフォード大学MBA、MA（開発経済）、京都大学PhD
外資系企業から、世界銀行（ワシントンDC）、アジア経営大学院、立命館アジア太平洋大学を経て現職。INSEAD（仏）やテュービンゲン大学（独）他、客員研究員。アジア各国での経営者トップセミナーを始めとして、多国籍企業や50か国以上出身のMBAを対象とした豊富な教育経験を有する。グーグル発のマインドフルネスリーダーシップの公式トレーナー。日本能率協会Kaika Awards 審査委員。日本グローバルコンパクト・アカデミックネットワーク（J-GCAN）会長。同志社大学Well-being研究センター長。著書に『進化するマインドフルネス–ウェルビーイングへと続く道–』（創元社）。

担当科目　＜ビジネス専攻＞　『ダイバーシティ・マネジメント』『企業経営と良心』
＜グローバル経営研究専攻＞　『Business and Society in the Global Context』『Responsible Leadership in the Global Context』
『People and Organizations』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』

専門分野　経営戦略、組織・人材開発、ビジネス倫理

教授

Arif IQBALL（アリフ イクバル）

ノースウェスタン大学修士（製造工学）、ミシガン大学MBA（国際ビジネス）および修士（アジア/日本研究）、ウォートン・スクール・オブ・ビジネス（エグゼクティブ・ディベロップメント・プログラム）修了。
様々な業界で25年以上のキャリアを積み、著名企業で要職を歴任。ペネッセのグローバルCFO兼コーポレートシニアバイスプレジデント等、日本、中国、米国の上場・非上場企業15社以上の取締役経験あり。アジア市場の深い洞察力かつグローバルな視点とエグゼクティブコーチとしての知見から人間中心のアプローチによるビジネス課題の解決と変革型リーダーシップを提唱。2017～24年には関西外国語大学教授（経営学）。

担当科目　＜グローバル経営研究専攻＞　『Strategic Management』『Professional Development』『Project-based Internship』
『Understanding Japanese Corporations』『Master Thesis and Research Project Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』
『Critical and Analytical Thinking』

専門分野　Leadership Effectiveness; High Performance Leadership Teams; Asian Leadership; Strategic Management.

教授

殷　勇（イン　ユウ）

東北大学大学院経済学研究科経営学専攻博士課程後期修了、経営学博士
山形大学教授を経て現職。中国西北工業大学客員教授。Asian Journal of Management Science and ApplicationsのEditor in Chiefを担当し、The Asian Association of Management Science and Applicationsの会長（2013–2015）も務める。

担当科目　＜ビジネス専攻＞　『オペレーションズマネジメント』
＜グローバル経営研究専攻＞　『Operations Management』『Foundations for Sustainable Management』
『Operations Management in Asia』『Critical and Analytical Thinking』
『Master Thesis and Research Project Ⅲ』

専門分野　持続可能な生産システム、ものづくり経営学、経営定量分析

※兼担：同志社大学に所属／嘱託：他大学や学外の機関・企業に所属、その他

〈グローバル経営研究専攻〉

教授

大串　葉子　（おおぐし　ようこ）

佐賀大学大学院経済学研究科（経営学）修士、マンチェスター大学大学院（会計・財務）修士、
九州大学大学院経済学研究科（経営学）博士。
新潟大学経済学部助教授、椙山女学院大学現代マネジメント学部教授を経て、2023年9月より現職。

担当科目　＜グローバル経営研究専攻＞　『Accounting』『Strategic Cost management』『Entrepreneurship』
『Business Analysis and Valuetion』『Critical and Analytical Thinking』
『Master Thesis and Research Project Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』

専門分野　投資経済計算、事業評価、ITマネジメント

准教授

奥平　寛子　（おくだいら　ひろこ）

大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、経済学博士
岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授、University College London 研究員（日本学術振興会海外特別研究員として派遣）を経て現職。膨大な政府統計を用いたデータ分析や行動経済学に知見を活かした実験など、幅広いアプローチから実証分析を行 う。最近の主な論文として、「高年齢労働者の増加と企業の調整行動」（奥平寛子, 滝澤美帆）、日本経済研究、近刊; “Working from Home: Its Effects on Productivity and Mental Health” (Ritsu Kitagawa, Sachiko Kuroda, Hiroko Okudaira, Hideo Owan), PlosOne, forthcoming; s”Oxytocin-Trust Link in Oxytocin-Sensitive Participants and Those Without Autistic Traits” (Hirofumi Kurokawa, Yusuke Kinari, Hiroko Okudaira, Kiyotaka Tsubouchi, Yoshimichi Sai, Mitsuru Kikuchi, Haruhiro Higashida, Fumio Ohtake), Frontiers in Neuroscience 15.

担当科目　＜グローバル経営研究専攻＞　『Business Economics』『Sustainable Human Resource Management』『Creativity in Organizations』
『Human Resource Management in Asia』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』

専門分野　労働経済学、応用ミクロ計量経済学、人事の経済学

准教授

正田　ヴェラ　パオラ　（ショウダ ヴェラ パオラ）

筑波大学大学院博士課程修了
2021年より神戸大学経済経営研究所および計算社会科学研究センターにて准教授を務める。人工知能の専門知識を活かし 社会科学と工学の両面からデータサイエンスの研究に取り組んでいる。

担当科目　＜グローバル経営研究専攻＞　『Information Technology/Management』『Business Research Methhod』
『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project Ⅱ』

専門分野　感情工学 、データ科学 、計算社会科学

教授

須貝　フィリップ　（スガイ　フィリップ）

早稲田大学PhD、ニューヨーク大学スターンビジネススクールMBA（Marketing, Operations Management）
American Express、Muze Inc、Lightningcast Incのマーケティング・エグゼクティブを歴任し、現在は国内外の企業のマーケティング・アドバイザー、およびマーケティング戦略コンサルタントを務める。『Building Value through Marketing (Routledge, 2020)』と『The Six Immutable Laws of Mobile Business』（John Wiley & Sons, 2012）の2冊を著し、またIvey Business School Publishingより、HOSOO（株式会社細尾）、ネスレ日本、AGL、初音ミク、Walt Disney Internet Groupに関してのケーススタディを発表。国際大学国際経営学研究科教授を経て現職。

担当科目　＜グローバル経営研究専攻＞　『Marketing』『Sustainable and Responsible Marketing』『e-Marketing』
『Marketing Research』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』

専門分野　Value、Innovation、Responsible Marketing

教授

吉田　悦章　（よしだ　えつあき）

京都大学博士（地域研究）
ハーバード大学留学後、一橋大学商学部卒業。日本銀行、国際協力銀行にそれぞれ10年以上勤務。この間、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科特任准教授、早稲田大学ファイナンス研究センター客員准教授等を兼務したほか、2019～21年にはウズベキスタン共和国情報通信省副大臣を務めた。2022年4月より現職。

担当科目　＜グローバル経営研究専攻＞　『Finance』『Japanese Business Practices』『Investment in Asia』
『Making Sense of the Global Economy』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』

専門分野　国際金融、グローバルビジネス、イスラーム金融/ビジネスとSDGs経営、フィンテック

〈客員教授〉

客員教授

大上　高充　（おおうえ　たかよし）

横浜市立大学商学部卒業、BOND大学（豪州）経営学修士課程修了
元オムロン株式会社 執行役員 グローバル理財本部長。オムロン独自のROIC逆ツリーやPPMの導入・展開を主導し、東京証券取引所「企業価値向上表彰」の大賞を受賞するなど、同社の企業価値向上に貢献した。現在は、独立行政法人 中小企業基盤整備機構 Science Tokyo 横浜ベンチャープラザのチーフインキュベーションマネージャーとして、技術系スタートアップの育成、エコシステム作りに取り組む。

担当科目　＜ビジネス専攻＞　『企業価値経営』

専門分野　経理・財務・経営管理

客員教授

新村　猛　（しんむら　たけし）

同志社大学大学院ビジネス研究科（MBA）、筑波大学大学院博士課程システム情報工学研究科修了。博士（工学）
独立行政法人産業技術総合研究所研究顧問（サービス工学）、慶應大学大学院システムデザインマネジメント研究科特任教授などを経て、現在株式会社GANKO代表取締役、立命館大学食マネジメント学部客員教授、近畿大学次世代基盤技術研究所客員教授、神戸大学バリュースクール客員教授等を併任。
ビジネス分野では営業、人事、経営企画、CIO、CTOなどを経て複数企業の代表取締役として企業経営に携わるとともに、研究者として主に非製造業分野のイノベーションシステムの開発と社会実装に取り組む。企業経営及びシステム実装の過程で求められるリスクマネジメントについても多くの研究、実務経験を有している。

担当科目　＜ビジネス専攻＞　『リスクマネジメント』

専門分野　サービス工学、システム工学、システムデザインマネジメント

客員教員・兼担教員・嘱託教員および担当科目（2025年度開講科目）

※兼担：同志社大学に所属／嘱託：他大学や学外の機関・企業に所属

各教員の2026年度担当科目は一部変更となる場合があります。
決定次第ビジネス研究科ホームページに掲載します。
教員の履歴・研究業績は、ホームページに掲載しています。併せてご覧ください。

URL：https://bs.doshisha.ac.jp/

〈ビジネス専攻〉

兼担教員

有井　健
『Green Management in Action』
同志社大学 国際教養教育院 教授

佐藤　研一
『ビジネスコミュニケーション』
同志社大学 商学部 准教授

嘱託教員

天野　祐一郎
『M&A戦略』
山田コンサルティンググループ株式会社
コーポレートアドバイザリー事業本部 常務執行役員本部長

飯田　浩司
『リーガルマインド』
明治学院大学 経済学部 教授

石原　克治
『企業の社会的・国際的役割』
京都大学大学院 経営管理研究部 特別教授

勝連　城二
『プロジェクトマネジメント』
PMイノベーションオフィス51
プロジェクトマネジメント 組織開発 人材育成コンサルティング
代表

金武　創
『観光マーケティング』
京都橘大学 経済学部 教授

島　吉伸
『管理会計』
『コストマネジメント』
近畿大学 経営学部 教授

島ノ内　英久
『中小企業経営コンサルティング』
『中小企業経営演習』
株式会社ウィレンス 代表取締役

筒井　肇
『マクロ経済分析』
筒井金融経済研究所 代表

殿村　美樹
『地域ブランド戦略』
株式会社TMオフィス 代表取締役 兼 PRプロデューサー

内藤　浩樹
『知財マネジメント』
大阪工業大学 大学院知的財産研究科 教授

中森　孝文
『京都の知恵ビジネス』
龍谷大学 政策学部 教授

東谷　典尚
『戦略的企業再生』
あかつき教育図書株式会社 取締役

宮井　秀明
『税務戦略』
BTJ税理士法人（代表社員）公認会計士・税理士

宗平　順己
『DXビジネス戦略』
『イノベーション特殊研究（サービスデザイン論）』
武庫川女子大学 共通教育部 嘱託教授

村上　政俊
『現代地政学と経済安全保障』
皇學館大学 現代日本社会学部 准教授

森脇　肇
『リーガルマインド』
弁護士法人興和法律事務所 弁護士

安酸　建二
『会計・ファイナンス特殊研究（原価計算）』
近畿大学 経営学部 教授

〈グローバル経営研究専攻〉

客員教員

Joseph HALDANE
『Global Intensive Subject 2』
The International Academic Forum（IAFOR）会長

藤川　佳則
『Marketing』
一橋大学大学院 経営管理研究科 教授

兼担教員

Robert William ASPINALL
『Writing Skills for Effective Communication』
同志社大学 国際教養教育院 教授

高橋　宏司
『Business Law』
同志社大学法科大学院 司法研究科 教授

Anya DOI-BENSON
『Cultural and Creative Industries』
同志社大学 国際教養教育院 准教授

嘱託教員

Bishnu Kumar ADHIKARY
『Environmental Accounting』
兵庫県立大学 国際商経学部 教授

Francesco UKON
『The Business of Fashion Industry』
ディーゼルジャパン株式会社 Senior Finance Director

佐土井　有里
『Knowledge and Innovation Management』
名城大学 経済学部 教授

佐藤　治子
『Political Economy of Sustainabilty』
大阪大学大学院 国際公共政策研究科 特任教授

杉山　浩一
『Global Intensive Subject 3』
有限会社杉山マネージメント開発 代表取締役社長

C. Jeffrey CHAR
『Global Intensive Subject 1』
ジェイ・シード株式会社 代表取締役

Carlos TARRERO
『Cultural Tourism』
ザ・リッツ・カールトン京都 総支配人

David MARUTSCHKE
『Marketing in Asia』
大阪経済大学 経営学部 准教授

『MOT特殊講義』（京田辺校地開講）担当者

大谷　直毅
『ナノテクノロジー』
同志社大学 理工学研究科 教授

奥田　環
『情報技術』
同志社大学 理工学部 嘱託教員

北岸　宏亮
『生命科学』
同志社大学 理工学部 教授

後藤　琢也
『環境エネルギー学』
同志社大学 理工学部 教授

廣垣　俊樹
『制御システム』
同志社大学 理工学研究科 教授

吉田　純一
『情報技術』
同志社大学 理工学部 嘱託教員

公開講座・特別講座（2024年度実績）

一般の方も参加できる公開講座や授業体験のほか、ビジネス研究科に属していることにより特別に参加できるセミナーや特別講座などを幅広く開催しています。

ビジネス研究科所属の教授陣が、各分野のホットな話題について、多彩な切り口と的確な分析で今後の展望を提示します。また、多方面の企業との交流セミナーや他大学講師の特別講義など、幅広い知識修得や価値創造を体感することができる画期的な企画を開催しています。今後のイベントについては決定次第、ビジネス研究科ホームページに掲載します。

MBA入門シリーズ講座

- ●データサイエンス
  実施日：2024年5月26日（日）
- ●ビジネスファイナンス
  実施日：2024年6月2日（日）
- ●経営戦略
  実施日：2024年6月9日（日）
- ●中小企業経営
  実施日：2024年6月16日（日）
- ●ビジネス経済学
  実施日：2024年6月23日（日）
- ●イノベーションマネジメント
  実施日：2024年6月30日（日）
- ●組織行動と人的資源管理
  実施日：2024年7月7日（日）
- ●ビジネスファイナンス
  実施日：2024年10月13日（日）
- ●データサイエンス
  実施日：2024年10月20日（日）
- ●経営戦略
  実施日：2024年10月27日（日）
- ●ビジネス経済学
  実施日：2024年11月3日（日）
- ●イノベーションマネジメント
  実施日：2024年11月10日（日）
- ●組織行動と人的資源管理
  実施日：2024年11月17日（日）
- ●企業のマーケティング戦略と消費者行動
  実施日：2024年11月24日（日）
- ●中小企業経営
  実施日：2024年12月1日（日）

最新情報を確認できます

寄付教育研究プロジェクト

寄付教育研究プロジェクトは、個人、法人、企業やその他学外機関からの寄付を受けて、本学の教育研究活動を活性化し、多様化することを目的として設置するプロジェクトです。研究センターとともに独創的な研究拠点の形成を目指しています。また、個性豊かな授業科目や公開講座などの寄付講座も開設しています。

■産学連携による MBA 教育機能強化プロジェクト

株式会社 SCREEN ホールディングスの協力を得て、先端技術分野のグローバル事業および経営についての教育・研究を展開するプロジェクトです。国際的に評価されるビジネススクールの新たな産学連携モデルの形成を目指しています。

- 公開講座
  寄付教育研究プロジェクト「産学連携によるMBA教育機能強化プロジェクト」
  2024年度実施報告セミナー
  実施日：2025年3月12日（水）

MBA公開講座

主催：同志社大学大学院ビジネス研究科
後援：京都リサーチパーク株式会社

- 中小企業の経営～学ぶことの意義 2024～
  実施日：2024年7月28日（日）

事業展開力養成実践講座 ～MBAの手法で学ぶ事業戦略・組織マネジメント・ファイナンス～

主催：公益財団法人京都産業２１、同志社大学大学院ビジネス研究科
対象：京都府内中小企業の企業経営者、経営幹部層およびその候補者等

- 第１回「オリエンテーション」「事業定義の枠組み」
  「事業定義の枠組みを利用しての自己紹介」
  実施日：2024年10月1日（火）
- 第２回「どのような事業を行うか」
  実施日：2024年10月8日（火）
- 第３回「事業を展開するための組織づくり①」
  実施日：2024年10月15日（火）
- 第４回「事業を展開するための組織づくり②」
  実施日：2024年10月22日（火）
- 第５回「事業展開に必要な会計・財務の知識①」
  実施日：2024年10月29日（火）
- 第６回「事業展開に必要な会計・財務の知識②」
  実施日：2024年11月5日（火）
- 第７回「最終レポート発表」「学習継続の案内」
  実施日：2024年11月19日（火）

京都府リカレント研修における同志社ビジネススクール共同企画講座 MBA体験コース ～新事業創造の基礎的知識マスター講座～

主催：京都府生涯現役クリエイティブセンター、京都府リカレント教育推進機構、同志社大学大学院ビジネス研究科

- 第１回「オリエンテーション」「新事業立案の枠組み」
  実施日：2024年8月10日（土）
- 第２回「経営理念と新事業」
  実施日：2024年8月17日（土）
- 第３回「リーダーシップを磨く」
  実施日：2024年8月24日（土）
- 第４回「会計に強くなる」
  実施日：2024年8月31日（土）
- 第５回「新事業レポートの作成とディスカッション」
  実施日：2024年9月21日（土）

同志社MOT(Management of Technology)コース（ダブル・ディグリー）

3年間でビジネス修士(専門職)と修士(工学／理学)の2つの学位が取得できます

同志社大学大学院ビジネス研究科と理工学研究科では、技術を経営に生かし企業のイノベーションを促進する優れた人材を養成するため、高度で実践的な教育研究を行う技術経営コースを設けています。本コースは、両研究科における履修課程をシームレスに結ぶことにより、3年間でのダブル・ディグリー取得を可能とするもので、本学におけるMOT教育の水準向上に資するとともに、産業界からのMOT人材育成の要望に応えるものです。

コースの概要（理工学研究科に先に入学する場合）

理工学研究科に入学した年度の 7 月頃に本コースへの出願を行います。入学試験では面接試験により、本コース履修に必要な知識や適性などを判定します。

試験合格者は、理工学研究科を２年で修了した後に、ビジネス研究科へ２年次生として転入学します。ただし、理工学研究科在籍中でもビジネス研究科の科目を並行して履修することになります。（右の単位習得例を参照）

なお、本コース修了者には、理工学研究科を修了した時点で修士（工学）もしくは修士（理学）の学位が授与され、引き続いてビジネス研究科に進学し修了した時点でビジネス修士（専門職）の学位が授与されます。

単位修得例　理工学研究科修了後ビジネス研究科へ進学する場合

※1 理工学研究科在籍中にMOT分野の指定科目を履修した場合は、ビジネス研究科修了に必要な単位数に6単位を上限として参入されます。また、理工学研究科在籍中に研究実験Ⅰ・Ⅱ（計4単位）を履修しなければなりませんが、これは理工学研究科、ビジネス研究科とも修了に必要な単位数に参入されます。

※2 理工学研究科在籍中に、ビジネス研究科設置科目を履修できます。これは理工学研究科の修了に必要な単位数には参入されませんが、ビジネス研究科に転入学した際には既修得単位としてビジネス研究科修了に必要な単位数に参入されます。

国際連携プログラム

ビジネス研究科は、下記のような大学院との間で単位相互交換等の連携を行っています。
詳細はビジネス研究科事務室へお問い合わせください。

ベルリン自由大学 経営・経済学部
Free University of Berlin,School of Business and Ecomomics

1948年に設立されたドイツのベルリン市にある国立総合大学。ベルリン大学の19世紀以来の伝統を汲むドイツを代表する大学の1つです。2019年、ベルリン大学連合の1校として、ドイツ連邦政府の研究助成プログラム「エクセレンス・ストラテジー」におけるエクセレンス大学の1つに選定されました。

スタヴァンゲル大学 ビジネススクール
University of Stavanger, UiS Business School (Norway)

2005年に設立されたノルウェーのスタヴァンゲル市にある公立大学。スタヴァンゲル大学は、設立より学部学科増設、国際交流の各分野の推進に力を入れており、海外からの学生の受け入れを積極的に行なっています。

ヨーテボリ大学大学院
School of Business, Economics and Law, University of Gothenburg

19世紀、スウェーデン第2の都市、ヨーテボリに設立。独立したビジネススクールとして国際的視野を持つ人材育成を目標とする、由緒ある大学院です。

テュービンゲン大学 経済社会学研究科
Faculty of Economics and Social Sciences, University of Tübingen

1477年創立。ドイツ政府によりエクセレンス・イニシアティブに採択された、ドイツにおいて最も権威のある大学の１つです。

中国人民大学商学院
Renmin University of China School of Business

中華人民共和国建国後の1950年に設立された中国最初の大学であり、人文社会学を主とする国家重点大学の１つ。商学院は、EQUISとAACSBという２つの国際的な認証を受けたビジネススクールです。

国立台湾師範大学管理學院
Taiwan National Normal University, College of Management (Taiwan)

1946年設立。台湾中等教育に携わる優秀な教師陣の育成を主な出発点とします。管理學院は2008年に設立され、台湾で最も新しい国立ビジネススクールです。

ガジャ・マダ大学 経済ビジネス学部
Universitas Gadjah Mada, Faculty of Economics and Business (Indonesia)

インドネシア最古かつ最大の国立大学院で、18学部を持つ最高峰の大学。
経済ビジネス科は、インドネシアで最高のビジネスプログラムを提供していることで広く知られています。

グローバル経営研究専攻（修士課程）

グローバル経営研究専攻の特色

2014年度、ビジネス研究科では、英語で学位を取得することができるグローバルMBAコースをさらに発展・充実させ、新たに「グローバル経営研究専攻」を設けました。本専攻は、英語での授業や多様な留学生と触れ合うグローバルな環境を提供し、MBA取得に意欲のある日本人学生と、世界各国からの留学生とが共に学び、将来は日本企業等の国際化に貢献することが期待されています。また、社会的使命を持つ国際ビジネスリーダーとして様々な課題に対応できる経営知識修得を目指します。

人材養成目的

ビジネス研究科グローバル経営研究専攻修士課程は、グローバル化の中で社会的使命を持ち、サステナビリティ、文化と創造性ビジネス、アジアビジネスへの理解と研究を通して、国際ビジネスリーダーとして必要な視点や能力を身につけて、日本と母国の経済発展を支える人物の養成を目的とします。

中心的学問分野

Sustainability サステナビリティ	Culture and Creativity 文化と創造性ビジネス	Business in Asia アジアビジネス
経済発展と環境問題、環境マネジメントの課題などを包摂し、実際の経営と地球環境の諸問題を探求する。	ポップカルチャー、ファッション、アニメ、伝統文化などの産業を中心に、多様な文化、発展の傾向を比較分析し、社会との関係性を解明する。	日本を含むアジア各国固有の経営システムへの理解、比較研究を軸に、アジアビジネスが世界に果たす役割を制度論的に追及する。

グローバル経営研究専攻のより詳しい内容に関しては…
URL https://gmba.doshisha.ac.jp/gmba/en/　E-mail ji-gmba@mail.doshisha.ac.jp

「学びのオアシス」を目指して

教室やラウンジ、図書室などの学習環境を整備しハード面でも充実したサポート体制で学習を支援しています。

対面式階段教室
全席に電源コンセントが備え付けられています。

最新の設備をもつ学舎（まなびや）
通学に便利な立地

同志社大学今出川校地の北西に位置する寒梅館の2階・3階に、ビジネス研究科の本校があります。京都駅から地下鉄で10分という好立地にある学舎（まなびや）は、忙しいビジネスパーソンには好適です。

寒梅館2階には教室が、3階にはラウンジ、プロジェクトルーム、図書室、教員研究室、事務室等があります。また、寒梅館は大小様々な会議室やイベントホール、レストランなどの施設も備えています。

土曜日も営業している寒梅館レストラン

教　室

教室は、対面式の階段教室で、学生と教員が、あるいは学生同士がコミュニケーションをはかりやすいように設計されています。すべての教室で無線LANが使用できるほか、プロジェクター等の機器も常設されています。

受講者数に合わせられるよう様々なタイプの教室があります。

24時間利用できる専用スペース
知的な交流空間

寒梅館3階のビジネス研究科専用スペースには、ラウンジやプロジェクトルーム、図書室などの施設があり、24時間・365日利用可能です。勤務後に立ち寄り学習する学生も見られます。深夜まで学習する学生のためのセキュリティー管理も万全です。ここは、学習を効果的に行うための機能性だけでなく、知的な交流空間としての雰囲気を大切に考えた設計となっています（随時見学も可能です）。

ラウンジ

もうひとつの議論の場
ラウンジ・プロジェクトルーム

様々なキャリアを持つ学生が、教室を離れて自由に議論ができるもうひとつの交流空間、それがラウンジとプロジェクトルームです。

ラウンジには、数名のグループで議論を行ったり、データベースを利用しながら意見交換ができるよう無線LANを完備した大小多数のテーブルが置かれています。また、個人専用のロッカーも設置されています。

プロジェクトルームでも、無線LANやプロジェクターを利用して議論やグループワークを行うことができ、ラウンジと同様、日曜や祝日にも活発に利用されています。

ラウンジ

プロジェクトルーム

24時間利用可能な専用図書室

経営戦略、マネジメント、マーケティング、会計、ファイナンス、情報、その他関連分野の図書・雑誌等を所蔵しています。ビジネス研究科学生専用のデスクトップパソコンや、無線LANが完備され、蔵書検索や各種オンラインデータベースの利用も可能です。静かで広々とした閲覧スペースには、58席の閲覧席が設置されています。

図書室

図書室　パソコンコーナー

大阪サテライト・キャンパス

働きながらMBA取得を目指す社会人にとって、オフィスからキャンパスまでの距離や移動時間は重要なポイントです。ビジネス研究科では、今出川校地（寒梅館）のほかに、大阪（梅田）のサテライト・キャンパス内に教室を設け、大阪付近に勤務している人にも学びやすい環境を整えています。

大阪サテライト・キャンパスでは、平日の夜間（6限・7限 18:25〜21:35）に授業を開講しています。

大阪サテライト・キャンパスには、教室のほか、パソコンを設置したラウンジや、教科書や専門書、辞書などを配備した閲覧室があり、学習をサポートしています。

大阪サテライト・キャンパス

大阪サテライト・キャンパス　パソコンコーナー

シニアアシスタント（SrA）制度

ビジネス研究科修了後も講義に参加し、最新のビジネス教育を受けることができる充実したフォローアップ制度です。社会の様々な分野で活躍している修了生が講義に参加することで議論の高度化、活性化につながると共に、修了生と現役生そして教員間の交流による新たなネットワークの構築が期待できます。

2026年度入試概要　ビジネス研究科ビジネス専攻（専門職学位課程）

募集人数　30名

修業年限

2年を標準としますが、3年修了もできます。

入試概要

■ 対象（出願資格）
大学卒業またはそれと同等の学力※を有し、入学時に原則として 3年以上の実務経験を有する方。
※出願に先立って出願資格の認定が必要です。所定の期日までに申し出て、出願資格の認定審査を受けてください。

■ 入学者選抜
第1次選考（書類選考）／第2次選考（口述試験）：第1次選考合格者について行います。

■ 入学試験日程

項　目	秋期実施入試	春期実施入試
出願期間	2025年7月28日（月）～8月4日（月）	2026年1月6日（火）～1月13日（火）
第 1 次選考	選考結果を2025年8月30日（土）付で、本人あてに郵送します。	選考結果を2026年1月24日（土）付で、本人あてに郵送します。
第 2 次選考	2025年9月13日（土）、14日（日）のうち、大学が指定するいずれか1日。	2026年2月14日（土）、15日（日）のうち、大学が指定するいずれか1日。
合格者発表	2025年9月19日（金）	2026年2月20日（金）

上記入学試験のほか、ビジネス研究科ビジネス専攻では「企業・団体等推薦入試」「本学学部在学生推薦入試」および「外国人留学生入試（留学生別科生推薦を含む）」を設けています。出願資格、日程等が異なりますので、それぞれの入試要項（ホームページからダウンロード可）でご確認ください。

■ 企業・団体等推薦入試
所属企業等よりビジネス研究科への派遣の推薦を受けた方を対象に「企業・団体等推薦入試」を実施しています。「企業・団体等推薦入試」では、出願の日程や要件が上記の入試と異なりますので、「企業・団体等推薦入試要項」（ホームページからダウンロード可）でご確認ください。

■ 本学学部在学生推薦入試
本学の社会学部・法学部・経済学部・商学部・政策学部在学生で学部長推薦を受けた方を対象とし、若干名受入れます。詳しくは、「学部在学生推薦入試要項」（ホームページからダウンロード可／６月１日公開）をご確認ください。学部長による推薦書については所属の学部事務室へお問い合わせください。

■ 外国人留学生入試（本学留学生別科生推薦を含む）
詳しくは、「同志社大学大学院外国人留学生入試要項」（ホームページからダウンロード可）をご確認ください。

■ ビジネス研究科グローバル経営研究専攻（修士課程）（本パンフレット P.25参照）
上記入試制度以外にグローバル経営研究専攻（募集人数45名）の入試を設けています。
詳しくはホームページ（https://gmba.doshisha.ac.jp/gmba/en/）を参照してください。

入試説明会

ビジネス研究科では「オープンスクール」、「入試説明会」および「授業体験」などを行っています。日程等はホームページにてご確認ください。また、本研究科の授業は、「MBA公開講座」や「MBA入門シリーズ講座」（本パンフレット P.22-23参照）でも疑似体験できます。

学費

■ 学生納付金
2026年度入学生の諸会費については、金額を変更する場合があります。確定した学生納付金はホームページで公表します。
（https://www.doshisha.ac.jp/admissions_graduate/procedure/pgs/index.html）

2年修了の場合の標準学費　（単位：円）

	第 1 年次	第 2 年次
入　学　金	200,000	
授　業　料	1,062,000	1,262,000
教育充実費	227,000	227,000
総計（2年間）	2,978,000	

3年修了の場合の標準学費　（単位：円）

	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次
入　学　金	200,000		
授　業　料	2,324,000		
教育充実費	227,000	227,000	113,500
総計（3年間）	3,091,500		

※第2年次に卒業生団体であるDBSネットワークの会費25,000円（終身会費）を徴収します。詳細につきましては、DBSネットワークに直接お問い合わせください。
お問い合わせ先　E-mail : info@dbs-network.com

奨学金制度

名　称	種類	金　額	対　象		採用［出願］(*1)	願書交付	出願期間(*2)	採否決定	備　考
			家計基準	成績基準					
同志社大学短期貸付金	貸与（無利子）	①一般貸付 30,000円以内 ②特別貸付100,000円以内	やむを得ない事情で、一時的に生活費支弁が困難になった者		①0 ②0	緊急の場合に随時（事務室開室時間）			一般貸付の返還は3か月以内、特別貸付は10か月以内の月賦返還
日本学生支援機構大学院第一種奨学金	貸与（無利子）	月額 下記金額から選択制 50,000円 88,000円	本人および配偶者の収入金額の合計額 299万円以下	成績が特に優れ、学術研究者として適格と認められる者	第一種 21 ［21］	3月下旬～	4月上旬	7月上旬	標準修業年限まで貸与 借用総額により異なるが修了後10～20年以内に返還 新入生には、初回振込時、10万円、20万円、30万円、40万円、50万円から選択して増額可能な制度あり 第二種奨学金の利率の上限は3% 外国人留学生は出願不可 第一種奨学金には「特に優れた業績による返還免除」制度（「採用時返還免除内定」制度含む）あり
日本学生支援機構大学院第二種奨学金	貸与（有利子）	月額 下記金額から選択制 50,000円 80,000円 100,000円 130,000円 150,000円	本人および配偶者の収入金額の合計額 536万円以下	成績が平均水準以上で、特定の分野において特に優れた資質能力があると認められる者	第二種 9 ［16］	9月上旬～	9月中旬	12月上旬	

(*1) 採用者数［出願者数］は2023年度実績。専門職学位課程の採用者数。
採用人数に限度があるため、上記基準内であっても採用されない場合があります。
(*2) 詳しい出願時期、出願方法に関しては、出願のしおりや本学奨学金ウェブサイト等にて必ずご確認ください。

教育訓練給付制度

■ 専門実践教育訓練給付について
ビジネス研究科ビジネス専攻（専門職学位課程）は、2018年度より「専門実践教育訓練給付金制度」の対象講座として指定されています。
この制度は、一定の条件を満たす雇用保険の被保険者（在職者）、または被保険者であった方（離職者）が、厚生労働大臣の指定する専門実践教育訓練を受講し修了した場合、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の一部（最大128万円）をハローワークから支給する制度です。ただし、対象は本専攻の**2年履修生**に限られます。また、雇用保険の状況により支給を受けられない場合もありますので、詳細については本研究科ホームページで確認の上、ハローワークにてお尋ねください。

■ 人材開発支援助成金の利用について（ビジネス専攻に入学する従業員の学費を支援される事業主の方へ）
ビジネス専攻（専門職学位課程）が、2018年度より専門実践教育訓練給付金制度の対象講座となったことに伴い、本専攻に入学する従業員の教育訓練費用を負担する事業主で一定の要件を満たす場合は、人材開発支援助成金を受給することができます。
人材開発支援助成金とは、事業主が、雇用する労働者に対して職務に関連した専門的な知識および技能の習得をさせるための職業訓練などを計画に沿って実施した場合や人材育成制度を導入し労働者に適用した際に、訓練経費や訓練期間中の賃金の一部等を助成する制度です。同制度の詳細については、本研究科ホームページまたは厚生労働省ホームページでご確認ください。

科目等履修生

自分が現在もっとも必要だと思う科目を選択的に学習する機会を提供するために設けられた単科受講制度です。修得した科目は単位認定され、この単位は将来仮にビジネス研究科へ進学した場合、一定の条件の下で修了に必要な単位として認定されます。これまでにも科目等履修生として授業を履修した後、ビジネス研究科に進学した学生が多く在籍しています。

「中小企業・地域経営」履修証明プログラム

企業経営に関する経営戦略、会計、金融、マーケティングなどの幅広い専門知識とその実践力を養成する専門職大学院としての特徴と「中小企業・地域経営」に関する高度な専門性と実践応用力を追求できるというビジネス専攻の特徴を活かし、中小企業や地域の課題を解決するための企画・立案力および実践力を強化できる履修証明プログラムを提供しています。

修了生からのメッセージ

医療機関に勤務する看護管理者の実務が、看護サービス管理から、医療、政策、経営を含めた看護経営管理へと広がる中で、DBSでの学びとネットワークは、看護部長としての役割を果たす上で欠かせない要素となりました。その基盤は、DBSの教育が実践的で、理論と実務のバランスが取れていること、年齢や職種、国籍を問わない卒業生や同級生、そして先生方との温かい交流にあると思います。また、ソリューションレポートの執筆を通して、「新しい眼鏡をかけたように世界の見え方が変わる」（先輩の言葉）を経験し、それと同時に、私の思考プロセスが変わったことを実感しています。このことは、臨床での問題解決能力を高め、医療・看護の質向上につながっています。

DBSの授業やそれに留まらないすべての経験は、まさに「良心教育」の具現化の連続です。“人間を尊重し企業や組織の成長を担えるリーダーシップを備えること”は、私の仕事においても重要な指針となりました。

進学に迷われている方、DBSにはすばらしい先生方と、助け合い支え合う素敵な仲間やかけがえのない友人との出会い、自己成長の機会があります。実務と学業の両立に、ぜひ挑戦していただきたいと思います。

2025年3月修了
戸倉　さゆり さん　修業年限：2年
（とくら　さゆり）

洛和会ヘルスケアシステム
医療法人社団洛和会　丸太町病院　看護部長

病院内の看護部門統括責任者として、医療の質を維持・向上させるために組織全体の運営や看護スタッフの管理、予算管理、教育・研修の企画・運営などを担当しています。

「良心教育」を掲げる DBSでは、標準的な MBAの科目だけではなく、長い歴史を持つ京都の伝統に関連した科目を学ぶこともできます。そこでは短期的な利益の追求にとどまらない、自らが携わるビジネスの本質的な価値を再考する機会を得ることができます。

私はファミリービジネスの4代目の後継者として、今後目指すべき方向性を探るために入学しました。通常よりも長い3年間の在学を経た今、様々な経営理論を学ぶことが自らの判断の軸を形成する上で有用であったことを実感しています。特にソリューションレポートの執筆においては、指導教員の熱意ある指導の下、最先端の質的研究の手法を学びながら先行研究と格闘し、自らも一次資料を収集しながら新しい知見の導出に挑み、時に苦しみながらも大きな達成感と自信を得ることができました。

また DBSでは、自分と同じような悩みを抱える学友にも出会い、時には議論を交わすことで学びの質を高め合いながら、プライベートでも利害関係のない友人として貴重な存在となっています。

何かを深く勉強することには、単純に新しい知識が足し算されるということではなく、今まで抱いていた自らの世界観を覆してしまうような、自己破壊的な要素があります。その過程は必ずしも快いものではありませんが、それを乗り越えた後に見える景色が、勉強してよかったという実感をあなたにもたらしてくれるでしょう。

2025年3月修了
岡本　祐樹 さん　修業年限：3年
（おかもと　ゆうき）

岡本電気株式会社
代表取締役社長

在学中に事業承継しました。電気設備の設計と施工を行っており、特に工場における生産設備などの新増設・移設・改造等に伴う電気設備工事・施工管理を得意としています。

ビジネスを「体系的に学びたい」それが私の入学動機でした。DBSではカリキュラムが体系的に準備されているだけでなく、様々なバックグラウンドと個性を持つ理論家の先生・実務家の先生が入り交じり、同じ理論でも異なる視点から教わることができ、理解が深まりました。さらにDBSには京都ならではの伝統と革新の知恵を取り扱う科目があり、これが最高級の学びでした。伝統は変わらないものと思われがちですが、実は本質こそ貫かれるものの、常に変革しています。その中にイノベーションの本質が凝縮されていることを、身体レベルで学びました。

しかし、知識をどれだけ体系的に教わっても、残念ながら自動で体系化はされません。知識の実践と深い思考を通して初めて真に体系化される。私にとって、ソリューションレポート（SR）が真の体系化の場でした。新事業探索が実務の私は、事業機会の認識手法の研究を行い、新手法の有効性を実証しました。即時実務で活用し、今も考え続けています。

私は3年履修で、3年目はSRに専念できたことも知識の体系化にプラスでした。また入学同期と卒業同期の2代の戦友と呼べる仲間に恵まれたこともDBSで得たかけがえのないものです。

2025年3月修了
奥村　皓史 さん　修業年限：3年
（おくむら　ひろし）

株式会社島津製作所
医用機器事業部 事業企画部
ヘルスケア・イノベーション・グループ グループ長

医療分野における新事業探索を担当しています。自ら新事業を探索するとともに、新事業の探索・創出・インキュベートのマネジメントを行っています。

DBSネットワーク

2006年3月、ビジネス研究科在学中に培われた人々の輪が“DBSネットワーク”として組織されました。DBSネットワーク代表幹事の佐藤麻子さんからその活動について紹介いただきます。

2025年3月修了
佐藤　麻子 さん
（さとう　あさこ）
株式会社SCREENセミコンダクターソリューションズ

DBSネットワーク（DBSN）は、DBS在学生、修了生、教職員からなる組織で、2006年3月に設立されました。2025年現在、京都本部、東京分会、名古屋分会の3カ所を拠点に活動しており、ビジネス専攻生だけでなく、グローバル経営研究専攻生も積極的に参加しています。

DBSのミッションには「企業や組織の成長を担えるリーダーシップを備えた人物を育成する」とあり、DBSNもその理念に基づき、構成員の成長と挑戦を支援する各種イベントを実施し、業界や地域を越えたつながりを築いてきました。

物事をどう捉え、どのように行動するかが求められる中、DBSでは、年齢や役職を問わず自由でフラットな環境の中で、同期生や先輩後輩とのコミュニケーションを通じ、多様な知見や視点を体得することが可能です。私自身も、授業内外でのディスカッションや対話を通じ、思考を深めると同時に、新たな視点を得ることができました。この貴重な経験は修了後のキャリアにおいても大きな財産となっています。

DBSNでは、在学中の学習や研究を支えることで、在学生が未来に向けた知識と知恵を深められるよう力を尽くしています。また、修了生同士のつながりを活かし、業種や地域の垣根を越えた交流の場を提供することで、修了後も社会に新たな価値を創出する原動力となることを目指しています。

在学中も修了後も刺激的な学びと成長を得られるのがDBSの最大の魅力です。入学を検討されているみなさんには、ぜひ一歩を踏み出し、DBSの扉を叩いていただければと思います。ここで得られる経験と仲間は、これからの未来を切り拓く大きな力となると確信しています。

DBSN活動紹介

2024年度活動実績〈例〉

4月21日（日）	定時総会
6月　9日（日）	ゼミ相談会・DBSN新入生交流会
2月11日（祝）	DBS20周年の集い・懇親会
3月29日（土）	履修相談会

※左記以外に幹事会、入試説明会・オープンスクールの協力、名簿整備などを実施。

ゼミ相談会の様子

20周年の集い懇親会での集合写真

修了生による恒例の帽子投げ

サポート

入学前から修了まで、多様なニーズに対応する充実したサポート体制

ビジネス研究科には、様々な職務経験をもつ社会人から、大学生まで、幅広い年齢層の多様な人々が入学し、個々人の学ぶ目的やキャリア目標なども多様です。このような多様性に富むビジネススクールという特徴を踏まえて、入学前から修了まで、多様なニーズに対応する充実したサポート体制を整えています。

入学相談

ビジネス研究科には、「DBSでは何を学ぶことができるのか」「仕事との両立や、学ぶためにはどのくらいの時間的余裕が必要か」など入学に関する様々な相談が寄せられます。このような相談に対応するため、適宜入試説明会・オープンスクール・授業体験を開催しており、同席する現役生・修了生からの生の声もお聞きいただけます。また入学に関する個別相談や企業派遣相談については担当者または専任教員が常時対応する体制を整えています。

入学前オリエンテーション

DBSでは、入学予定者が円滑に学びを開始できるよう、体系的なオリエンテーションを実施しています。専門知識の修得に加え、理論と実践の融合、研究活動の充実、計画的な履修が求められるため、入学前から必要な情報を提供し、学びをサポートしています。

オリエンテーションでは、研究科長が教育方針を説明し、教務主任がカリキュラムや履修ルール、ソリューションレポート作成について詳しく解説します。必修・共通・専門科目の履修モデルや修了要件についても説明を行い、計画的な履修を支援します。さらに、プロジェクト研究とソリューションレポートの関連性や評価基準を示し、修了に向けた具体的な道筋を明確にします。また、事務室による学修支援制度の案内やキャンパス施設見学も行い、学習環境を把握する機会を提供します。Microsoft 365 や Teams等を活用した授業準備についても情報を共有し、入学後の学習を円滑に進められるよう支援しています。

半期に一度の個別履修指導

DBSでは、入学から修了まで教職員が一貫して様々な指導と相談に当たります。特に春学期と秋学期の履修登録期間開始前には、専任教員が全在学生に対して個別の履修指導を実施しています。この指導を通じて、学生は自身の多様な経歴と将来のキャリアデザインに合わせた履修計画（時間割）を策定することができます。

ゼミ説明会

ビジネス専攻に入学した全員が「プロジェクト研究基礎・Ⅰ・Ⅱ（ゼミ）」を履修することとなります。所属ゼミを検討するにあたって重要なイベントとなるのが、ゼミ説明会です。ゼミ説明会は2年修了の場合１年次、３年修了の場合２年次の6月に行われ、全専任教員がそれぞれ30分間のプレゼンテーションを行います。学生のみなさんは説明を聞いて興味を持ったゼミの教員と個別面談等を行い、約1ヵ月かけて希望するゼミを決めることになります。

【在校生の声】

丸井　直子 さん
まるい　なおこ
関西電力株式会社
イノベーション推進本部
イノベーション推進グループ
マネジャー

仕事と学業の両立に不安を抱きながらも大きな一歩を踏み出した我々に対し、指導教員からはきめ細かな履修指導や学習へのサポートに関するコミュニケーションを入学前から積極的に取っていただきました。

プロジェクト研究に向けた研究室選択においても、各教員が学生一人ひとりのバックグラウンドや専門性を深く理解し、卒業後の活躍に資する道筋へと導いてくださります。

このような手厚いサポートを経て、我々学生はさらなる自己理解の深掘と新たな学びへの意欲を加速させることができていると日々実感しております。

現在は経営戦略やマーケティング、ファイナンス等の理論を学びつつ、実際のケーススタディやグループディスカッションを通じて多様な視点と深い洞察を得る機会を得ています。特に、実務と結びついたカリキュラムは、業務に直結し非常に有益です。

今後は修了に向けて研究中心の日々となりますが、これまでの学びや先生方からのご助言を最大限活かし、自分自身の可能性を広げていきたいと考えております。

様々な機会を通じて本研究科の紹介・入学相談を実施しています。	相談をご希望の方は下記へ連絡ください。
●授業体験：本研究科の実際の授業の一部を聴講できます。 ●オープンスクール：専任教員、修了生・在校生が本研究科の説明や入学相談に応じます。 ●入試説明会：秋・春それぞれの入試について説明します。 ※日程等詳細はビジネス研究科ホームページ（https://bs.doshisha.ac.jp/bs/）をご覧ください。 ●個別相談：常時受け付けます。	TEL：075-251-4600 FAX：075-251-4710 E-mail：ji-dbs@mail.doshisha.ac.jp

DBS
同志社ビジネススクール

同志社大学大学院ビジネス研究科
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL 075-251-4600 FAX 075-251-4710
E-mail ji-dbs@mail.doshisha.ac.jp
URL https://bs.doshisha.ac.jp/

京都今出川校地　寒梅館

京都駅から10分／烏丸・四条から7分／今出川駅からスグ

●大阪・神戸・京都から

京橋 ― 京阪本線　特急50分 ― 出町柳 …徒歩15分…

大阪梅田 ― 阪急京都線　特急40分 ― 烏丸・四条 ― 地下鉄6分 ― 今出川

大阪 ― JR東海道線　新快速28分 ― 京都

●奈良から

奈良 ― 近鉄　京奈特急35分 ― 京都

●名古屋から

名古屋 ― 新幹線　のぞみ35分 ― 京都

●全国から

関西国際空港 ― JR 関空特急　はるか75分 ― 京都

大阪(伊丹)空港 ― 空港バス 55分 ― 京都駅八条口 …徒歩 5分… 京都

京都 ― 地下鉄9分 ― 今出川 …徒歩1分… 今出川校地

〒602-8580
京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL 075-251-4600
地下鉄「今出川」駅／徒歩1分
京阪「出町柳」駅／徒歩15分
E-mail　ji-dbs@mail.doshisha.ac.jp
URL　https://bs.doshisha.ac.jp/

大阪サテライト・キャンパス

JR線「大阪」駅／徒歩3分 地下直通

〒530-0001
大阪市北区梅田1-12-17
JRE梅田スクエアビル17階
TEL 06-4799-3255

ASSOCIATION OF MBAS ACCREDITED

150th 1875-2025 ANNIVERSARY

Doshisha Business School
people hold the key